日本の街道探訪　第16回

甲州街道（２）八王子宿から笹子峠麓の黒野田宿まで

小仏の関所、駒木野宿、小仏宿

■図1　地図

* 長さ一里にも及ぶ八王子１５宿を出立。甲州街道は西へ真っ直ぐ。高尾に入って、南浅川に沿って右折し、裏高尾ルートに入る。街道の左手には南浅川が流れている。左右は、開けた山麓の風景。ややあって、道の前を掘りのような細い川が流れている。橋を渡ると、厳めしい門。潜ると、右手に白州が見える。これが厳しい取り調べで有名な「小仏の関所」である。四谷の大木戸を出発してから最初の関所でもあり、数名の役人が厳しく「入り鉄砲、出女」を取り締まる。入り口の小川は堀であって、関所を巻いて流れているのだ。無事、関所を出るとすぐ右手に駒木野宿がある。旅籠数軒の宿場。此処を過ぎると開けた景色の中を街道は進む。左に流れる南浅川の流れは、清く、川魚が見て取れる。道は緩やかに右へ上がり、影信山の麓を左へ。するとそこに宿場がある。駒木野宿からいくらも経ってない。10軒ほどの旅籠が並んでいる。これが小仏宿である。ここは駒木野宿との合宿で、半月交替で営業した。
* これから先、甲州街道は裏高尾の小仏峠に向かう。小仏峠登山口に入ると、これまでの長閑な景色が一変して昼なお暗き森の道となる。山登りが始まる。景色は開けてきたが急な登り。荷馬にとっても難所。やっとの思いで、尾根に出る。そこは、高尾山から影信山に行く尾根道の中間で、尾根道とは言え、開けた広場になっている。休憩茶屋、馬小屋が並ぶ。旅人は景色を満喫しながら休憩。眼下に相模湖が広がり、見事な展望である。

小原宿

* 峠を降りる。下り道は、相模湖に向かって右から左に巻くように降りていく。すると途中に宿場がある。これが小原宿である。宿の下を見ると、相模川が蛇行しながら流れている。その流れはここで南に折れて相模湾へと向かっていく。小原宿は、本陣１、脇本陣1、旅籠7軒の小さな宿場ではあるが、小仏峠の甲府側に位置しているため、重要な拠点であった。そのことを象徴するかのように本陣は立派な建造物であった（今に残る）。
* 小原宿を出て、西南に下る。すると直ぐ与瀬宿に着く。ほんの近くである。下を流れる相模川は蛇行しつつ相模湖に入る。相模湖の北に与瀬宿がある（江戸時代は豊富な流れの相模川が流れていたのみ）。本陣1軒、旅籠9軒。小原宿と与瀬宿は互いに「片継ぎ宿場」の関係。江戸からの人や荷物は小原宿が受け、甲府からの人、荷物は与瀬宿が受ける。甲州街道は、与瀬宿を過ぎた後も相模川の北側を走る。いつしか川の名は、相模川から桂川に変わる。つまり桂川は、相模川の上流で、山中湖を水源とし、大月の下を流れ、相模湖近辺から相模川に変じ、ついには座間を通過し相模湾に入る。街道は桂川のすぐ北側を沿って行く。与瀬宿から４ｋｍで吉野宿（旅籠3軒）、それから２ｋｍで関野宿（同じく旅籠3軒）そして４ｋｍで上野原宿に到着する。

上野原宿

* 上野原宿の規模は本陣１，脇本陣２，旅籠20軒。甲州街道では大きな宿場に属する。ここは新町と本町で構成され、交替で伝馬を継ぎ立てていた。上野原宿は、この地域の経済的中心で、多くの物資が集積、流通され、市が開催され、発展。それに上野原宿は甲斐の国最初の宿場であり、宿場近くにある、国境には、諏訪番所（堺川番所）が設けられた。

鶴川宿

* 桂川沿いに西へ３ｋｍ歩くと鶴川宿である。ここも本陣１，脇本陣１，旅籠8軒のこじんまりした宿場。北から桂川に流れ込む鶴川を渡る。甲州街道で唯一の「徒渡し」が行われた処である。そこで大雨で増水した際には、鶴川宿に泊まることになる。甲州街道は桂川から次第に離れ、北の山間部に入っていく。鶴川宿から僅か３ｋｍで野田尻宿に。この宿も本陣１，脇本陣１，旅籠９軒の小さな宿場。

犬目宿

* 山間部を走る甲州街道はさらに北側の山の方へ。険しい道が続くが景色はすばらしい。富士山で有名な犬目宿に到着。犬目宿は本陣が２軒ある。脇本陣はなく、旅籠は15軒。人馬継ぎ立て問屋場もあり、この辺りの物流の中心地でもあった。犬目宿を出て山側のくねり道、犬目峠から見る富士は絶景で、北斎も広重も描く。北斎の「甲州犬目峠」。荷を運ぶ2頭の馬、簑笠を被り、峠をよじ登る旅人の左に広大な富士が聳えている。広重の「甲斐犬目峠」は、遙か下の桂川渓谷沿いの甲州道を犬目峠に向かって登る旅人、深い渓谷美と山の頂点の美、富士を描いたダイナミックな構図。広重は天保12年に甲府へ旅する。四月二日の早朝に江戸を出立。八王子宿で一泊し、二泊目を野田尻宿で過ごし、この犬目峠に向かっている。
* ■図2　北斎：富嶽三十六景：犬目峠を登る旅人。
* ■図3　広重：富士三十六景：甲斐犬目峠：深い桂川渓谷沿いの甲州街道を、犬目峠を目指して登る旅人、天頂の富士を描く。

鳥沢宿

* 甲州街道は蛇行する桂川の北側を走る。犬目宿から４ｋｍで下鳥沢宿に到着。本陣1，脇本陣2，旅籠11軒。それから１ｋｍ先に上鳥沢宿がある。ここは本陣１，脇本陣2，旅籠13軒。人馬継ぎ立て、問屋役は月を半分に分け、交互に負担した。二つ合わせるとかなり大きな宿になる。ここは道幅も広く、両側に宿場の建物が連ねた。

猿橋宿

* 鳥沢宿から3k歩くと猿橋宿である。甲州街道は、桂川の大渓谷に架かる有名な猿橋を渡ると宿場に到達した。猿橋は岩国の錦帯橋、木曽のなどと共に日本三大奇橋の一つ。桂川の水面から３1メートルの高さに架かる橋。鋭くそびえ立つ両岸から四層に重ねられた「」と呼ばれる支え木をせり出し、橋自体を支える特殊構造。四層の各刎木には、雨による腐食を避けるため、それぞれ屋根がついている。当時の文人墨客の多くがこの橋を紹介し、猿橋は一躍有名になった。いわば江戸期からの観光名所である。旅人はこの猿橋を渡って宿場に入った。本陣1、脇本陣２，旅籠10軒。甲州街道はこれより桂川の南側沿いを歩くことになる。
* ■図4　写真：猿橋の刎木構造

駒橋宿、大月宿

* 猿橋宿から僅か3kmで駒橋宿に着く。桂川は駒橋を過ぎ、すぐ近くの大月宿のところで南に転化し、河口湖に向かう。したがって街道はこれより、桂川に合流する笹子川に沿って西へ、花咲宿に向かうことになる。駒橋宿には、本陣、脇本陣が無く、旅籠は僅か4軒。そしてここから僅か１ｋｍ先の大月宿は本陣１，脇本陣２，旅籠僅か2軒の宿場である。

花咲宿

* 大月宿から僅か1kmで下花咲宿に着く。下花咲宿から１ｋｍ先には上花咲宿があり、花咲宿はこの2宿で構成されている。下花咲宿は、本陣1，脇本陣２，旅籠22軒、上花咲宿は本陣1，脇本陣２，旅籠13軒である。花咲という名は両宿の間に見事な桜の古木があり、壮麗な花を咲かせていた処から付いたという。

初狩宿

* 花咲宿から４ｋｍ先が初狩宿である。ここは月の前半と後半に分けて、下初狩宿と中初狩宿の2宿で一つの宿場の任を果たしている。下初狩宿は本陣２，脇本陣２，旅籠12軒。中初狩宿は本陣１，脇本陣１，旅籠25軒。甲州街道では、大きな宿場である。近くに流れる笹子川の支流、宮川に架かる橋から見る富士山の景色がすばらしく江戸時代の観光名所であった。「宮川橋の一目富士」。

黒野田宿

* 甲州街道は笹子川の北側に出たり、南側に戻ったり。初狩宿から６ｋｍで黒野田宿に着く。この間に白野、阿弥陀海道という二つの小さな宿場がある。黒野田宿は本陣１，脇本陣１，旅籠14軒のこじんまりした宿場だが笹子峠を控えているだけに多くの旅人が利用したという。
* 甲州街道はここから急峻な笹子峠を北上し、これを越え駒飼宿から降り下り、甲府盆地に出て勝沼へと繋がって行く。